

《排泄シンポジウム感想》

神奈川頸髄損傷者連絡会 瀬出井 弘美

ストーマ（人工肛門）造設の先輩方を差し置き、排泄シンポジウムのパネリストとして参加させていただきました。15分間のスピーチ内容を前日に手書きの下手くそな字で書き上げ（汗）、目の前の参加者の方の目線と「8分経過」「3分前」のカンペに、フラダンスのステージより緊張した15分でした（笑）。ほどほどの会場の広さに、ほどほどの参加者がありよかったのではないのでしょうか。

もっと女性目線での排泄管理のお話ができればよかったと思いますが、どうしてもストーマ造設中心の内容になってしまいました。私自身、専門家であるWOCナースの方に、日頃感じている疑問や質問をこの機会にさせていただいて感謝しております。シンポジウムの後、けっこう反響があり、実際にストーマとパウチをお見せした男性頸損の方がいらっしゃいました。後日メールをいただき、兵庫頸損の会員の方ではないということでした。

四肢麻痺者の排泄問題は、一生の共通する悩める問題です。活発なパネルディスカッションでも、参加された皆さんの関心の高さがうかがえました。「はがき通信」に原稿を書いたせいか、スト

ーマの相談や研修会などでのスピーチ依頼が増えました。私は、最終的にストーマ（人工肛門）という手段を選択いたしました。今後、特に高位脊髄損傷者の排便管理に人工肛門は、選択肢のひとつとして確実に提案されるような気がいたします。

シンポジウムの際にもお話させていただきましたが、私はストーマに“カメコ”と名付けて毎日話しかけております（笑）。自分の腸なので身体の一部なのですが、別の生き物（？）のようにも感じるからです。「自分のお腹に肛門がある」……ストーマを愛おしいものとして好きになれるかも、造設の大切な決断要素かもしれません。

関西の方々も勉強会を開催されたり、ストーマでの排便管理をされていらっしゃる方たちも多数いらっしゃると思いますが、私でお役に立てることがありましたら何なりとご相談に乗りますので、いつでもご連絡いただければと思います。

最後に、このシンポジウムを企画し、ご準備などに奔走された兵庫頸髄損傷者連絡会のスタッフの方々、付き添い、ボランティアの方たちに厚く御礼申し上げます。たいへんお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

